

共通専門科目／全学科共通

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
1 年次	選択	デザイン学概論 (デザイン学科必須)	講義	デザインを造形表現の結果からではなく、現代の社会構造を組織する一つの社会機能として分析する。	2		2
		建築デザイン論 (建築学科必須)	講義	建築計画系基礎科目として、建築設計・計画に関する基礎知識を広く学ぶ。「建築形態の諸要因」「人の知覚と行動」など6章立てで展開する。	4		4
		写真概論 (写真学科必須)	講義	芸術という視座において、写真の持つ機能と有用性、これからのあり方と可能性について考えることを目標に、写真とは何かを探る。	4		4
		工芸論 (美術学科必須)	講義	「工芸とは何か」について考え、次いで明治以降からの造形教育を総合的に理解し、今日の「工芸」の位置を把握することを目標とする。	4		4
		造形原理	講義	造形芸術(主に美術と映画)について、作品制作の際の基本的な方法や理論を原理として学び、逆にその原理との断絶についても教授する。	4		4
		色彩学	講義	光と色のスペクトル、色の表示方法、混色の理論と応用、照明と色彩、色彩の心理効果などの重要事項を学習し、色彩関連技術を習得する。	4		4
		デザイン史	講義	19世紀はじめから20世紀にかけてのデザインの歩みを産業、芸術、日常文化などのかかわりから論じ、モダン・デザインを明らかにする。	4		4
		ビデオ映像制作論 ※1	講義	ビデオ映像の特性やその特性を生かした制作論を、現実との関係、言葉との関係、音楽との関係などの観点から、わかりやすく展開する。	4		4
		映像概論	講義	写真、映画、テレビ・ビデオ、コンピュータ・グラフィックスなどの映像について、概念、歴史、表現と理論、技術などを総合的に理解する。	4		4
		マンガ文化論	講義	造形表現の中で独特の働きや目的を持つマンガを追及。コミカルなストーリーとして絵図で物語を進展させていく情報伝達法を学ぶ。	2		2
		演劇概論	講義	俳優、戯曲、観客の三要素それぞれの意味と機能を類別。さらに演技と俳優、劇場と観客のいろいろな問題や東西の演劇史などに言及する。	4		4
		文芸概論 (文芸学科必須)	講義	一人の近代作家を例に、作品がどのような教養や知的背景、社会的、文化的な同時代性からの影響などで組み立てられているかを解説する。	4		4
2 年次	選択	美術論 (美術学科必須)	講義	対象(何を描くか)・物質(素材は何か)・視覚(いかなる目で見えるか)・技法(いかなる技法でつくるか)の4点から美術史を眺め、検証する。	4		4
		都市デザイン概論	講義	近代都市の歴史を通して、現代が抱える都市デザインの諸問題がどのように発生し、現在に至ったのかについて経緯を概観する。	4		4
		日本美術史	講義	中国、朝鮮半島、西洋など、外国の様式を受容し、咀嚼して変容させてきた日本の美術史を理解する。直に美術作品に触れる体験を重視する。	4		4
		西洋美術史	講義	眼で「観る」ことを大切にしながら、西洋美術の歴史的变化と多様性を考察。時代区分やそれぞれの流派の特徴など、基本的な知識を習得する。	4		4
		放送概論	講義	大きな社会的責任を担う放送メディアの現状を認識し、そのうえで放送の機能、特性を他メディアと比較しながら考える。	4		4
		音と芸術	講義	芸術表現手段の一つである音を、物理量と心理量の両面から学ぶ。感じる、創る、操るなど音にかかわるテクノロジーを含め、幅広く解説する。	4		4
		アートプランニング ※2	講義	壮大な芸術的アイデアを真に実現するため、財務や法務の基礎知識を含めて、クリエイティブなビジネスセンスを身につける。	2	2	4

※1 デザイン学科は専門科目としての履修となります。

※2 美術学科・デザイン学科・写真学科・音楽学科必修

■概要については変更になる場合があります。

共通専門科目／全学科共通

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
3 年次	選 択	20世紀の音楽 〈音楽学科必須〉	講義	ドビュッシーを 20 世紀の扉を開いた作曲家と位置づけ、20 世紀の音楽を作曲学的、技法的な側面から考察し、現代音楽への理解を深める。	4		4
		大衆芸能論	講義	漫才・コント・漫談・吉本新喜劇という「今日芸」と、落語・講談・浪曲・曲芸・奇術などの「古典芸」を対比し、芸の成り立ちや意義、仕組みを学ぶ。	4		4
		芸術情報論	講義	芸術と情報の関係をさまざまな角度から考察。情報化時代の芸術の進化をテーマに、インターメディア系の芸術やメディアなどを考察する。	4		4
		比較文化論	講義	普遍的な文化の捉え方にとどまらず、各民族・地域の特殊な文化の歴史的・風土的な個性を比較概観することにより相互理解の深化に力点を据える。	4		4
		映画史	講義	時代を反映し、社会にも影響を与えた日本映画を学び、映像による日本近代史を理解。日本文化と日本映画、映画芸術について理解を深める。	4		4
		建築論 〈建築学科必須〉	講義	建築すべての面に目を向け、建築デザインに必要とされる要素を学習。「建築」に対する分析力、考察力、表現力を養う機会とする。	4		4
	選 択 必 須	マネージメント研究 ※3	演習	セルフプロデュースの手法を学ぶと共に、さまざまな社会との繋がり方を模索し、マネージメント感覚と実践力を身につける。		2	2

※3 デザイン学科・写真学科・音楽学科必修

■概要については変更になる場合があります。